

未来拓くひとを育む和歌山へ



おさえた
とをしっかりと
対応していく「流行」の
部分があり、そのこ
な「不易」の部分と、ス
ピード感をもって時代に
育む教育面では、基本的
徳・体」をバランスよく
どさまざまな課題があり
なりませんが、不登校な
ほぼ全国平均と同じ程度と
◆全国学力調査は、ほ

宮下和己県教育長に聞く

中学生に地元学ぶ教科書

ふるさとと教育を推進

「未来を拓くひとを育む和歌山」を掲げて今春から新たな教育振興基本計画（第3期、5年）がスタートした。人口減少・高齢化やグローバル化、南海トラフ地震などへの対策を迫られているが、その柱は子供たちへの希望だ。和歌山の教育の現状と課題について県教委の宮下和己教育長（64）に語ってもらった。

ICT教育先行

—これまでの基本計画の達成状況はいかがですか。

ICT（情報通信技術）を使いこなせる人材

—南海トラフ地震をめぐる防災教育への取り組みは。

◆地域の防災については、すべての学校の教職員が地域防災のリーダーの役割を担ってもらいます。地震・津波などの避難には一刻の猶予も許されません。命を守るために中高生も自ら率先し

防災啓発

「津波の日」に高校生サミット



高台に向かって避難する訓練に取り組む子供たち—県教委提供

おとと取り組んでいきます。和歌山県版のふるさと教科書「わかやま何でも帳」を中学生全員に配布し、授業などで活用しています。本県独自の道徳教科書「心のとびら」や「希望のかけはし」も作り、その中で和歌山の先人たちの偉業も紹介しています。本年度はクイ

育成については、学習指導要領の実施目標年次よりも早く県独自に取り組み、早急にすべての小中高等学校で充実させていきます。

—少子高齢化が進み、学校の活力をいかに維持していきますか。

◆子供が減ってきたといって、効率化のために学校を統廃合していけばいいわけではない。学校を地域社会の拠点として考えることも大切で

—高校の課題は。

◆学校に特色をもたせるとともに、和歌山の子供は和歌山で育てるといふ姿勢で取り組んでい

全国募集を行い、和歌山に若い人を呼び込んでいきます。また就職希望の高校生を対象にした企業説明会「サマー企業ガイダンス2018」も6月中旬に開きます。すでに134社が参加予定で、県内企業の概要、職種への理解を深め、県内への定着を進めます。

一方、大学進学による県外流出も大きな課題ですが、東京医療保健大学和歌山看護学部（2018年4月開設）や和歌山県立医科大学薬学部（2021年度開設予定）など高等教育機関を充実し、県内で資格が取得できるようになりま

て動かなくてはなりません。江戸後期の安政南海地震の際、和歌山を襲った津波から村人の命をすくったという「稲むらの火」にちなんで「世界津波の日（11月5日）」が定められました。その「世界津波の日」高校生サミ

ットが今年10月31日、11月1日の2日間、本県で開かれ、世界約50カ国から参加し、その成果を和歌山から世界に発信していきます。

◆和歌山で育ったことに誇りをもち、海外や県外に活躍の場を求めて転出した人たちにも、和歌山と世界が直接つながっているとの実感を持ってもらいたいです。そのためにもっと和歌山のことを知って、学んでもら

ズ形式を用いた「ふるさと検定」も実施します。和歌山には豊かな自然、素晴らしい風土・文化があります。子供たちの成長を支える質の高い教育環境、コミュニティを築き、未来を拓いていく力を育んでいきます。

いますね。

—和歌山らしい「ふるさと教育」を推進されていますか。

—和歌山らしい「ふるさと教育」を推進されていますか。

—和歌山らしい「ふるさと教育」を推進されていますか。

主体的な学習活発に

パソコンやタブレット端末、インターネット通信など情報通信技術を活用した「ICT教育」。和歌山県立桐蔭中学校（和歌山市）は、その先進的な授業を実践している。県内のICT教育に先立って今春から同校では日高高校付属中学校（御坊市）とともに3年生全員にタブレット端末が個別配布され、実証実験が行われる。



5月下旬に訪ねた桐蔭中では、生徒に配布されるタブレット80台を待ちかねていた。嶋田暢也（なげ）教頭は「ICTの活用で、授業中、生徒が主体で行える。教員にとってテンポ良く、メリハリが効いた授業を工夫することができます。学校の授業と家庭での学びを結びつけ、学習効果をどう高めることができるか、非常に楽しみます」と語る。桐蔭中は、中高一貫による系統的な教育活動を目指している。科学「国際」「表現」という3領域で、教科の枠を超えて知的な好奇心を育む「桐蔭キョリオ」という独自の教育を実践。電子黒板はすでに全教室に配備されてインターネット環境も整備され、タブレット端末を使ったグループ学習は

中3全員にタブレット

2中実証実験

ICT教育

授業で情報通信技術活用



電子黒板を使用した授業風景



タブレットを活用したグループ学習を楽しむ生徒たち（いずれも和歌山県立桐蔭中学校提供）

5年前から始めている。ユーチューブで英語ICT教育の最大のメリットは質の高い学びと教育の効率化だ。社会科学では、世界各地の美しい光景や統計資料等を電子黒板に映し、詳しく紹介する。英語では、ユーチューブを活用して、英語の歌を楽しみながら発音や聞き取りの学習も重ねてきた。数学では、問題の難度に応じてヒントを示し、グラフや立体図形の移動も分かりやすく説明できる。

教員はインターネットを活用することで、教材分の夢について英語で発

の質を高め、教材研究の負担を軽減できる。生徒は、タブレットや電子黒板を使って自分の意見を発表し話し合うことで、理解を深め、さらなる学びに向かう力を獲得できる。これからの時代に必要なのはICTは切り離せない。

このほか情報の共有やグループ発表などの教育方法については和歌山大学から指導助言を受ける。タブレットの使用状況、位置情報、セキュリティについては、実証実験をサポートする警備保障会社と学校が情報を共有しながら管理し、安全で安心な生活環境の面でも活用を図っていく。

表したりして、スピーチ能力を磨くためにも活用したい」と期待する。今回のタブレットの個人配布で保護者説明会を開いたところ、情報モラルや通信時間の制限をめぐる指摘もあった。タブレットは午後10時から午前5時の間は使用できないように設定している。ただ保護者の希望があれば、午後10時から12時までの2時間延長使用できるように決めた。

大学入試が大きく変わる。大学入試センター試験は19年度を最後に廃止され、20年度(21年1月)から「大学入学共通テスト」となる。新制度で何が求められるのか。専修学校「和歌山英数学館」校長代理の吉田浩毅さん(31)に聞いた。

現在の高1から

◆新制度の概要を教えてください。

◆現在の高校1年生からその対象になります。出題教科・科目は導入当初には現行のセンター試験と同じく6教科30科目が予定され、従来の「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」が重視されます。特に国語・数学では記述式問題が導入され、試験時間も延長されます。

英語では、コミュニケーション能力を重視しようとして、4技能(読む・聞く・話す・書く)が評価されます。しかし、大勢の受験生に対して一斉に「話す」試験を実施するのは難しいので、民間の資格・検定試験(高校3年生の間に2回まで)が活用されます。それでも民間試験と共通テストをどう利用するかは大学側が指定します。まだ不透明なところが多いのです。

変わる大学入試

20年度から「共通テスト」

が、英語の総合力が求められ、より深い学習をしなければなりませんね。

—和歌山の進学状況は。

◆大学進学をめぐる県外流出率は全国でもトップクラスです。また、紀北地区の高校生は自宅から通える大阪府内の大学に進学する傾向があり、片道2時間半でも苦にしないようです。県内への3大学誘致による効果には期待しています。21年の県立医科大薬学部の開

国語数学に記述式問題

普段から「書く」習慣を



和歌山英数学館校長代理 吉田浩毅さん

よしだ・ひろき 専修学校「和歌山英数学館」校長代理、教育スーパーバイザー。和歌山市出身。新潟大学卒。受験生、保護者向けのセミナーを開催。地域のサッカーチームの指導もしている。



大学センター試験に臨む受験生ら。3年後には「大学入学共通テスト」へと変わる—和歌山市栄谷の和歌山大で1月13日

が重視されるという総合的な判断に基づいて準備しなくてはなりません。和歌山県では、大学受験をめぐる時代のスピードにまだついていけていません。高校のトップクラスにいてと思っている生徒も全国的な水準から見れば、そう安心はできません。周囲の環境に甘んじることなく受験意識を高めてほしいですね。

◆受験生への具体的なアドバイスを。

◆新テストでは、国語・数学で従来のマークシート方式から記述式が導入されますから、普段から書くことに時間を惜しまないでほしいです。いまICT(情報通信技術)教育などデジタル化が進み、書く機会が減っています。

気になるのは若い人の国語力の低下ですね。パソコンやスマホを通して簡単に情報を集め、表面的な理解で済ましてしまいがちです。読解力を身に着けることがすべての基本だと思えます。

最後に、部活を含めていろんなチャレンジをすることで、知的好奇心の種を増やし、育ててほしいと思います。進路の選択にあたっては、受け身ではなく、自らの選択で可能性を引き出していくことが大切です。若い間には無限の力があり、惜しまずチャンスに挑んでほしいですね。

思考・判断・表現力重視